

2022/8/20

(オマケの英語教室 behavior) 書庫版



Behavior

「振る舞い」とか「態度」とか言う意味です。

似たような言葉で attitude というものもあります。

中学時代は behavior より attitude の方が一般的だった様な記憶があります。

旺文社のマメタン (英単) では attitude の方が、扱いが上だったからです。

しかし外国人と話してみると attitude より behavior の方をよく使うと言っておりました。

Attitude という単語は余り使った事がないと。

そこでまた少し興味が湧いてきました。

まず

Behavior は名詞ですが動詞形は behave となります。

よく見るとこの動詞は be + have から成っている事に気づきます。

いずれも英単語の中では基本中の「キ」の動詞です。

和訳すれば「である、という存在」と「持つ、という状態にある」となりかなり根源的な動詞である事が感じられます。

似たような単語で become というのがあります。是も be + come で和訳すれば「である、という存在」と「来る、になる」となり上記同様かなり根源的です。

上述 behavior に対して attitude がある様に become に対しては get がそれにあたるかもしれません。

話を behavior(behavior)に戻しましょう。

では behavior と attitude はどう違うのか? (辞書を引かずに考えてみましょう)

まず attitude の切り口として接頭辞 att に着目してみます。Att が付く他の単語に attention (注意) や attendance(attend 付き添う)等があります。

是も分解してみると at (前置詞扱い) +tension(ほぼ tension でテンション、緊張感)と At + tend(の方に向かう、名詞形は tendency で傾向)となります。

Attitude も at + itude に分解できますが itude が何の事か分からないので一先ずこれ等をひっくるめて総合的に推測してみますと、まず attention と attendance から「の方に意識が向いて行動を起こす事」と言う風に括れそうです。

次に今度はそれを attitude に当て嵌めてみますと「～を意識してふるまう事、態度」となります。

最後にそれを behavior と比較すると

Attitude は「周りの目を意識した外面(そとづら)的な振る舞い」で behavior は自分の「根源的な部分」から出てくる「本人の人となり(な)が滲み出てくる様な自然な振る舞い」に分ける事が可能な様な気がします。

それで外国の人は behavior の方をよく使う。

つまり前者よりも後者の方でありたいという気持ちの表れの様な気が致しました。